



平成31年3月7日
京都市立桃山小学校
校長 浅田 浩

平成30年度 桃山小学校 第2回学校評価のご報告

運動場の南側に植えてある桃のつぼみがふくらみはじめています。日頃は本校の教育活動にご理解ご協力をいただきまして誠にありがとうございます。1月22日の学校公開日の後に実施した「学校評価（保護者質問紙）」「児童質問紙」「教職員自己評価」の結果をもとに、今後の改善点について考察しました。限られた紙面ではありますが、以下にご報告いたします。

桃山小学校の教育目標

志をたて 共に未来を拓く子の育成
～ やさしく・かしこく・たくましく～

目指す子ども像

夢中になって取り組み、挑戦する子
目標に向かい努力を続ける子
自分で考え、進んで行動する子
人と関わり、自分も相手も大切にする子

概要

今年度、子どもたちに朝会などで誰かの役に立てるような人になってほしいと願い、感謝と勤労・公共の精神を「特別の教科 道徳」の重点項目として、学校生活の様々な場面で感謝を伝え合えるような取組をすすめてきました。また、他の教科学習においても学習への意欲を高める工夫や、自分の思いや考えを発表することを大切にして授業を進めてきました。集計の結果から、項目10の「進んで発表する、自分の気持ち考えをみんなに伝える」の項目で、児童、保護者、教職員ともにポイントの向上が認められ、大きな成果だと考えています。

児童質問紙については、ほとんどの項目で80%以上の児童が「できている」と答えています。しかし、1～2ポイントではありますが、第1回の結果より低くなった項目も多くあります。教職員自己評価についても第1回の結果に比べて実現度が低くなった項目があります。あいさつや返事の指導とともに、子どもたちと共感的に接する姿勢など、日々の教育活動を通した継続的な改善の手立てを講じていきたいと考えています。

保護者質問紙については、第1回に引き続き、全体を通して概ね実現度が高いという評価をいただきました。これは、保護者の皆様が教育に対する意識を高くもたれ、本校の教育方針にご理解やご協力をいただき、子どもを見守り、育てようとしておられるおかげだと感謝しております。しかし、改善はしてきてはいるものの、実現度が60%台の項目もあります。これからも、子ども達の心身ともに健やかな成長を目指して学校と家庭が協力し合い教育活動を進めていきたいと考えております。

今回の学校評価の結果やいただいたご意見などについては職員会議で取り上げて話し合いました。今後、子ども達に指導をしたり、取組内容の検討や見直しをしたりして桃山小学校の教育活動に活かしていきたいと思います。お忙しい中、学校評価にご協力いただきありがとうございました。

○学校評価（保護者・児童・教職員）の結果

※ 実現度は『よくできている』・『だいたいできている』を合わせた値

第1回と比べ、4ポイント以上高くなっている項目に○印を、4ポイント以上低くなっている項目に▼印をつけています。

No.	項目	児童 実現度	保護者 実現度	教職員 実現度
1	楽しく学校に通っている。	91%	97%	100%
2	自分からあいさつをする。	▼ 86%	93%	▼ 68%
1	誰とでも仲良く協力する。	93%	95%	91%
4	「ありがとう」などの感謝の気持ちを伝え合う。	94%	▼ 92%	○ 81%
5	学校の約束や決まりを守る。	93%	97%	▼ 91%
6	家庭での役割を決めてやり遂げる。 当番活動（給食・掃除など）をやり遂げる。（児童）	95%	66%	91%
7	身の回りの整理整頓をする。	80%	74%	71%
8	読書の習慣を身に付ける。 進んで本を読む。（児童）	▼ 78%	○ 67%	○ 95%
9	人の話をしっかり聞く。	88%	87%	77%
10	授業中に進んで発表する。 自分の気持ちや考えをみんなに伝える。（児童） 授業中に発表する機会をなるべく多く設けている（教職員）	○ 80%	○ 67%	○ 96%
11	学習の基礎基本が身に付く。 学校の授業がわかる。（児童）	92%	85%	100%
12	学習の習慣が身に付く おうちで宿題や勉強をする。（児童）	86%	○ 91%	○ 100%
13	早寝早起きの習慣が身に付く。 児童は時間を守る。（教職員）	72%	74%	96%
14	好き嫌いなく食べる。	84%	84%	100%
15	子どものよさを認めほめる。 自分のいいところを知っている。（児童）	72%	87%	100%
16	困った時には先生に相談する。 児童に寄り添い、話を聞く。（教職員）	▼ 75%	93%	100%
17	安全に気をつけて行動する。	92%	97%	86%
18	積極的に外遊びやスポーツなどの運動をする。	84%	▼ 77%	▼ 81%

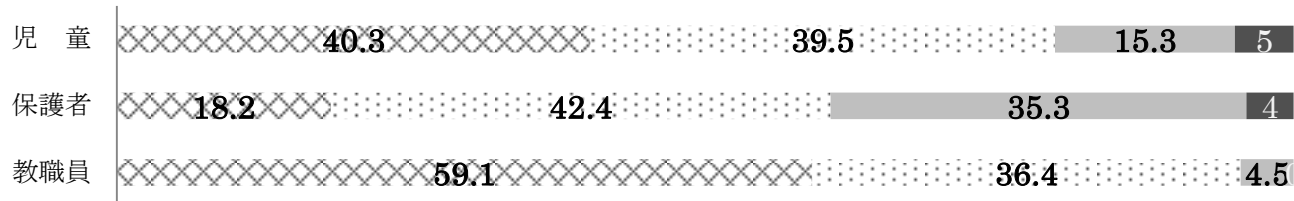
この印刷物が不要になれば
「雑がみ」として古紙回収等へ！



主な成果

⑩ 進んで発表する

× よくできている ∷ だいたいできている ■ あまりできていない ■ できていない



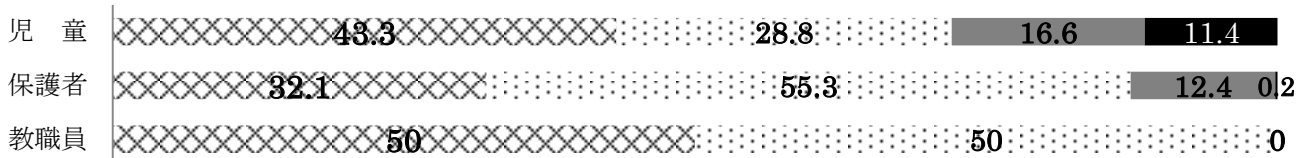
○概要でも記しましたが、主体的、対話的な授業につながる「発表力」について、本校では高学年でも学級全体への問いかけに対して、挙手して発言する姿がよく見られます。教職員の取組として、授業では二人組で考えを伝え合ったり、グループ内で意見交流をする機会を、意図的に設けたりしています。学級全体に向けて発言するのが不得手な子にとって、少人数で交流する時間は自分の思いを表出できる場になっていたようです。さらに、話を聞いてもらえる学級の環境も大切だと言えます。およそ9割の子どもたちが人の話を聞くことができると答えており、「話す」「聞く」のけじめや自分の思いを共感的に聞いてもらえる学習環境を培ってきた成果でもあると考えています。

主な課題

□「(あ)かるく、(い)つでも、(さ)きに、(つ)たえる あいさつ」を合言葉に、あいさつ運動をすすめています。教職員から「おはよう」などあいさつの声を掛けると、声が小さい子もおりますが、ほとんどの子があいさつを返しています。「自分から進んで」という部分にこだわると、教職員から見た評価は低くなってしまいました。声が小さかったり、あいさつしなかったりする子がいると、何かしら不安や悩みを抱えているのではないかと思うことがあります。心も体も元気になり、笑顔であいさつができるよう働きかけたいと思います。ご近所の大人の方と子どもたちはどれくらいあいさつを交わしているでしょうか。顔を見知った大人の方にはあいさつができるようご家庭での働きかけをお願いしたいと思います。

⑮ 自分のいいところ 子のよさを認める

○ よくできている ∷ だいたいできている ■ あまりできていない ■ できていない



□項目⑮で、「自分のいいところを知っていますか」という問い方で、自己肯定感を見取ろうとしています。第1回でも取り上げましたが、全市的に子どもたちの自己肯定感が低い状況があります。学校では子どもの言動を肯定的にとらえ、その子の良さを認めるように心がけています。昨年度は「ありがとう」がいっぱいの学校にしようと呼びかけ、一定の成果がありました。今年度は、子どもたちが「ありがとう」と感謝され

るような取組を模索してきました。たとえば、ベルマーク回収についてPTA学級委員さんにご協力いただき、集まってきたベルマークの仕分け作業を、一部の子どもたちではありますが手伝ってもらいました。学習以外の場面でも、誰かの役に立てたという体験を積みさせていきたいと考えています。

また、子どもたちにとってお家の方からの褒め言葉は、善悪を判断したり、行動したりするときの価値づけにつながります。「家庭での役割を決めてやり遂げるように働きかけている」という回答は66%でした。ご家庭でもお手伝いや役割が果たせたときには、子どもが自己肯定感を高められるような声かけをお願いいたします。

☆自由記述より

自由記述には70名を超える保護者の方からご意見をいただきました。「いつもありがとうございます」という感謝のお言葉をたくさん頂戴し、教職員にとっても励みになっています。学校まかせではなく、家庭も地域も一緒になって子育てや教育を進めたいという趣旨のご意見をいただきありがたく思っています。

地震や台風など自然災害の多い年でありましたので『安全面』についてのご意見をたくさんいただきました。プール東側のブロック塀について、点検の結果、基準に則った建設ができているという評価いただきましたが、傾斜地であるため石垣部分を含めるとかなりの高さがあり、絶対に安全であるとは断言できません。より安全な設備に改修できるよう計画を進めています。地震に関しては教室の本棚やキャビネット、廊下の靴箱や掃除用具庫の固定についてのご指摘もありました。また、保護者へ引渡しなど緊急時の連絡方法について、大阪北部地震の時のように大きな災害時は電話がつながりにくく、学校ホームページやPTAメールでの通知としましたが、引渡しの情報が入らなかったという保護者もおられました。保護者への引渡しをするケースや、地震や台風などで臨時休校する場合に、学校からの直接の連絡がなくてもご判断いただけるよう、年度初めに周知していきたいと考えています。

子どもたちが身に付ける物について、給食エプロンはPTA学級活動委員の活動のひとつとして点検・補修をお願いしていますが、ボタンが取れることがないよう丁寧に着替えることや、たたんで袋に仕舞うといった日頃の扱いについて教室で指導の言葉を添えてほしいというお声をいただきました。また、上靴を清潔に保ちたいので、汚れが目立つ前に持ち帰らせてほしいというご意見もありました。マスコミでも取り上げられましたが、教科書を学校に置いて帰り、登下校の負担を減らしてやりたいというご意見もあります。学年によって必要な学用品が異なりますので、副教材や一部の教科書は学年ごとに検討して学校でお預かりしています。

トイレなど設備面でのご要望も数多くいただいております。校舎内での2足制について、夏季休業中に北校舎1階の通路に靴箱を移設する計画をしておりました。ところが6月の大阪北部地震や避難訓練の状況を受けて消防署からは児童の避難通路を確保するよう指導を頂きました。本来、廊下には物を置かず、通路を狭めないことが望ましいためです。そこで、渡り廊下など校舎外に靴箱を設置できないか計画の見直しをしています。経費の面での課題がありすぐに改修できない状況です。現在のところは、校舎の各出入口に設置しているマットの数を増やして対応しています。子どもたちに砂泥を校舎内に入れないよう指導を図りながら、校舎内の環境美化に努めていきたいと考えています。

そのほかにも、運動会や桃山学習発表会において、三脚などで場所を長時間確保されている保護者がおられるというご指摘を頂きました。競技や演技、出演している学年の保護者を優先するよう、皆さんのご協力を継続して呼びかけていきたいと思います。また、保護者アンケートについて、質問内容によって親の働きかけが実現している度合か、子の到達している度合か、その両方なのか、聞かれているのがどれか分からないというご指摘がありました。比較のため第2回目も同じ問い方をさせていただきましたが、改善を図りたいと思います。

学校運営協議会より

今回の学校評価の結果については3月1日（金）の学校運営協議会にて、ご意見を頂戴しました。夏の酷暑による夏季休業中のプールや地域行事の在り方や、地震などの災害時に保護者への連絡や児童の引渡しについてなど、話し合いました。また、小中連携の取組として、小・中学生が地域に貢献できる機会をつくり、子どもの自己有用感や肯定感を高められるようにしていけたらという意見も出ました。今後も学校と家庭と地域が連携をして子ども達を育てていきたいと思います。